オーディオ実験室収載

Sound Blaster による種々の音源取り込み(2)
―CD リッピング WAV 音源からの取り込み―

DAT テープからの Sound Blaster による取り込みにより、DAT 録音マスターのクオリティの高さを認識し、CS/PCM や BS-Hi や DVD からの Sound Blaster による取り込みにおいても、事前にクロック入力するなど高音質化しておけば、かなりの高音質化した音源を PC に取り込みが可能なことが分かりました。そこで、もう少し慾を出して次のようなことを考えました。
即ち、予め CD からリッピングして USB メモリーなどに取り込んでおき、この音源を USB-101 経由で Sound Blaster による取り込みを行えば、より高い音質が望めるのではないかということです。即ち、PC を 2 台用いて次のような段階を踏んで取り込みます。
１）CD リッピング（HDD）→USB 固体メモリー→Dynabook G8（XP 機）→USB-101(ABS-7777 クロック入力）→Sound Blaster Digital Music SX→Dynabook TX/66GS（Vista 機）→USB 固体メモリー（以下、USB 録音固体メモリーと略称）
これと比較するのは、音源を HDD に置くのと、PC の内蔵 CD ドライブでプレイバックする場合です。
２）CD リッピング（HDD）→外付け HDD→Dynabook G8（XP 機）→USB-101(ABS-7777 クロック入力）→Sound Blaster Digital Music SX→Dynabook TX/66GS（Vista 機）→USB 固体メモリー（以下、USB 録音 HDD と略称）
３）Dynabook G8（XP 機）内蔵 CD ドライブプレイバック→USB-101(ABS-7777 クロック入力）→Sound Blaster Digital Music SX→Dynabook TX/66GS（Vista 機）→USB 固体メモリー（以下、USB 録音 CD ドライブと略称）
これらと比較するのが、下記となります。
４）CD リッピング（HDD）→USB 固体メモリー（以下、USB 固体メモリーリッピングと略称）
５）CD リッピング（HDD）→外付け HDD（以下、HDD リッピングと略称）
６）CD ドライブプレイバック（以下、CD ドライブ）
なお、１）～４）での USB 固体メモリー音源からのプレイバックは下記を標準とします。
USB 固体メモリー→Dynabook TX/66GS→USB-101（ABS-7777 クロック入力）→DAC-1
５）での外付け HDD 音源からのプレイバックは下記のとおりです。
外付け HDD→Dynabook TX/66GS→USB-101（ABS-7777 クロック入力）→DAC-1

６）CD ドライブ音源からのプレイバックは下記のとおりです。
内蔵 CD ドライブ→Dynabook TX/66GS→USB-101（ABS-7777 クロック入力）→DAC-1
基本となるのは、６）ですが、USB-101 を通すことにより、通常の CDP より、音が静かで分離も良くなっています。しかし、HDD にリッピングした５）はさらに音の分離が良く滲みが減っています。４）では固体メモリーに音源があることにより、その傾向は進み、繊細さや音楽の抑揚がしっかりしてきます。
これらに比べて、USB-101 と Sound Blaster 経由で録音した１）～３）はどうなるかと言うことになります。
まず、３）と６）とを比較すると数段音の分離が良くなり、３）は５）と同等クラスにグレードが上がったと言えます。２）と５）とを比較するとさらに数段音の分離が良くなり、２）は４）と同等クラスにグレードが上がったと言えます。次に、１）と４）とを比較するとさらに音の分離が良くなり、１）＞４）で繊細感、空間表現はいうことありません。
いずれも USB-101 と Sound Blaster 経由で録音することにより、そして音源を USB 固体メモリーに持っていくことにより、確実にグレードアップが期待されます。
以上から、結論は簡単に「USB-101 は再生プロセスだけでなく、録音プロセスにおいても音質向上に有効である」ということになろうかと思います。

以上